

丸石化学品は、2030年度までの4年間を対象とする次期中期経営計画に向けて経営基盤の強化を進める。グループ全体で最終年度に売上高700億円以上、営業利益12億円以上を目指すなか、新経営陣により戦略・体制の見直しを実施する。マーケットインの基本方針の下、ビジネスユニットのあり方から管理体制の最適化を図り、27年度から次期中計に取り組む。

既存事業の塗料、ゴム関連などは海外展開と機能強化によりプレゼンスの拡大を図り、メガトレンドの追求として電子材料、ライフサイエンスなど成長市場に注力する。また、次期中計の期間内に新体制にあわせて人事制度も見直し、エンジニアシメント向上を目指す方針。

新規ビジネスでは電子材料で進捗があり、M&A（合併・買収）も含め次期中計では中核ビジネスに育成したい考えだ。ライフサイエンス関連は既存ユーザーとの取り組み強化を中心に化粧品業界などへの可能性を追求する。

グループ会社の丸石テク

次期中計に向け基盤強化

ノは塗料、空調とも工事関連を中心に業績を順調に伸ばしている。さらに事業拡大を目指し、M&Aなどの手法を検討する。丸石フラスはゴム関連の受託ビジネスが堅調でエンプラコンパウンドも拡大しており、今年度の黒字化を狙う。また、将来に向けて製造ラインの更新などの投資も検討中。

海外展開に関しては、重要市場と位置づける東南アジアでのプレゼンス拡大とインドでのテーマアップを目指す。タイではプロジェクティブな取り組みテーマが進展しており、投資も含め検討を始めている。新たに現地法人を設立したベトナムではまだテーマアップの開発段階だが、早期黒字化に向けて取り組みを加速する。中国ではゴムコンパウンドの合弁会社との協業を継続注力中。ホルムズ海峡閉鎖による原料調達難などの影響もあり、開発案件立ち上げの遅れが想定されるが、27年度の実績化を目指す。